

議会だより

3月定例会

No.23

平成23年4月27日

発行 石川県志賀町議会

ししか

平成23年度一般会計当初予算 補助金等の見直しで	ページ
経常経費を抑制	2
特別職・一般職の給与を1年間減額	6
国勢調査結果 町長の所感は（一般質問）	11
グループ紹介 富来観光ガイドの会又次（またじ）	16



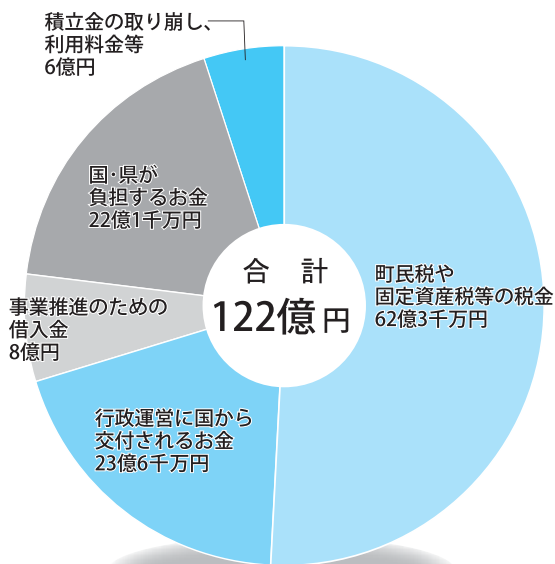
手作りかりんとう お味はいかが？（児童館 米粉かりんとう作り）

志賀原子力発電所の大規模償却資産に係る固定資産税が減少
補助金等の見直し、給与減額で経常経費を抑制

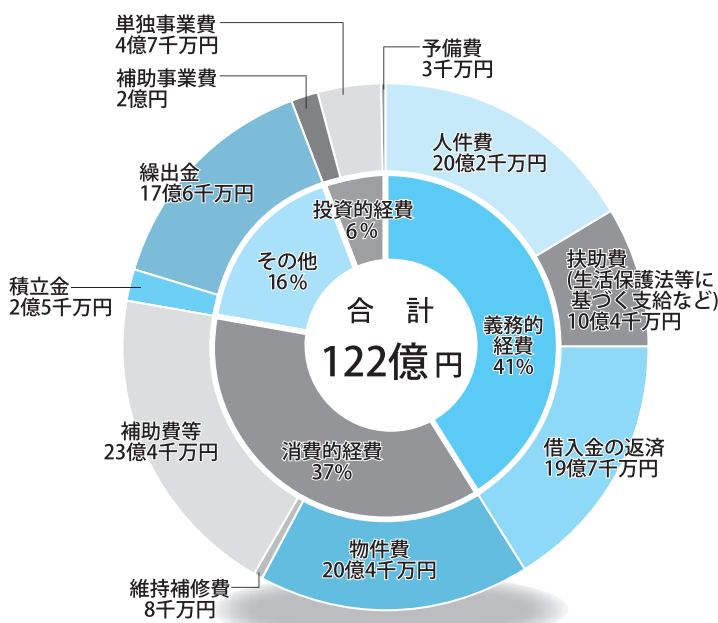
新年度予算 一般会計 122 億円

対前年度比 1億8千万円の減 全員賛成

一般会計の財源(歳入)



一般会計の使いみち(歳出)



町の主な事業を行う一般会計は、対前年度比1億8千万円減の122億円となりました。歳入では、景気低迷や雇用情勢の影響により、法人町民税で増収を見込むものの、個人町民税、原子力発

特別会計・事業会計含む
予算総額 224億6千万円
対前年度比2億8千万円減

3月定例会は、3月1日から15日まで15日間の会期で開かれました。町長から提案された平成23年度一般会計予算、9特別会計予算、2事業会計予算のほか、22年度補正予算、条例の制定や改廃、指定管理者の指定などの45議案を審議し、いずれも全会一致で可決しました。町政一般質問では、3議員が登壇し、町長の考えをいただきました。

電所の大規模償却資産に係る固定資産税の減収により町税の総額で前年度比3億7千万円減の62億3千万円を計上。今後は歳入の減少に見合った歳出の見直しを進めていかなければ、健全財政は維持できないものと考え、財政負担の軽減を図るため補助金等の見直しおよび特別職・一般職の給与を1年間減額し、通常の経常経費の抑制を図っています。特別会計・事業会計を合わせた予算総額は、対前年度比2億8千万円減の224億6千万円となりました。

平成23年度の主な施策事業

予算編成方針



町長 小泉 勝

健全な財政運営を心がけたい

今後も「将来にわたって、安心して暮らせる、住みよい町づくり」を着実に進めるために、山積する諸課題を一つひとつ解決しながら、必要なものには思い切って投資を行い、無駄は省いて行くということを基本姿勢に、第2次集中改革プランなどに基づく行財政改革を積極的に進めながら、健全な財政運営に心がけていきたい。

一般会計における主な施策事業は以下のとおり。

いつまでも住み続けられる住み続けたいまちの創造



拡幅された富来病院前の道路

まちづくり交付金事業

8781万円

富来地頭町で散策路整備、道路拡幅、道ギャラリー、広場、案内サイン整備など、地頭町商店街を中心とした「歩いて楽しいまちなか回廊軸」の構築を行います。

北陸新幹線金沢開業に向けた交流人口の拡大を図る

町祭事業 1200万円

夏に実施している「やっちゃん祭り」に加え、冬に食をテーマとした町祭を新たに開催する予定で交流人口の拡大と誘客に努めます。
その他、地域資源の見直しによる既存観光施設や新しい観光ポイント、観光ルートなどの企画を進めます。

地球温暖化対策等の推進

海岸漂着物処理

6540万円

太陽光発電システム設置に補助

300万円



企業誘致による企業誘致対策経費
雇用の創出
1億3515万円

工場誘致奨励金と企業立地補助金を活用し地道に企業誘致に努め既存企業のフォローアップもしています。

学校教育施設の充実

統合小学校建設事業

基金積立金

1億17万円

堀松・加茂小学校体育館耐震補強事業

5767万円

下甘田小学校体育館改修事業

1193万円



堀松小学校体育館

健康増進対策

子宮頸がん等ワクチン接種事業

1386万円

子宮頸がん予防ワクチンの接種費用の全額助成を引き続き実施。新たにヒブワクチンと小児肺炎球菌ワクチンの接種費用の全額助成を実施します。

予算審査は、議長を除く16人の委員で構成された特別委員会（戸坂忠寸計委員長、下池外巳造副委員長）を設置し、3月7日、8日の2日間にわたって審議しました。

審査の中から、主な質疑内容を報告します。

一般会計

産廃監視員委託料 町が負担は疑問

問 梨谷小山の産業廃棄物監視事業で230万円計上。昨年も町が負担するのはおかしいと質問したが、その後、事業者と話しをしたのか。

答 先月、事業者と監視員委託料の話をした。できれば事業主も幾分か負担してもらえないかと話しているが、まだ返事はもらっていない。

フローリー基金が 無くなった

問 花のミュージアムフローリーは基金が無くなったらどうするのか。

答 元々2億円の基金を運用して施設の修繕を行っている。来年度も支出することにより8240万円の残高になる。今後、基金の増額、施

設の整備など行政がこのままやるのか、北陸電力と話をしている。

平成16年から管理を始めて既に7年を経過し近い将来、基金がゼロに近くなるのは間違いのない。早急に交渉を進める。



花のミュージアムフローリー

地籍調査の進捗は

問 地籍調査事業はどれくらい進んでいるのか。

答 富来地域は24kmを計画し、平成16年度から開始して4・6km終了。進捗率19・1%。志賀地域は今年度、徳田地区の閲覧が終わるとほぼ完了する。

ごみ有料シール どうなる方向で

問 ごみ減量化促進対策事業で有料シールが10月から始まると聞く。どういう方向で進めるのか。

答 現在、シールの販売は志賀地域では農協のみだが、富来地域に準じて住民の利便性を考え、一般商店でも登録してもらえば販売したいと思っている。

問 一般家庭だと年間どの程度の負担か。

答 4人の標準世帯であれば2千円から3千円程度だと思う。



ごみステーション

はまなす園は独立 して運営すべきだ



はまなす園

問 はまなす園は町が補助し、町長が理事長に就任している。将来的なことを考えれば、町から独立して運営してもらおうべきではないか。民間の介護事業者も厳しくなることが予測される。

答 10年後には老人がだんだん減っていくという状況で民業圧迫はいけない。そのことを目処に、民間に全部移行できればいいと思っている。

一次産業の振興に 新しい施策を

問 農水一次産業の振興に目玉となる施策がない。町が元気になるには一次産業の振興なくして語れない。元氣が出るような目新しい施策を打ち出してほしい。

答 国の政策の方向性を見定めてから、町の方向性を決めたいほうが安全という思いから、そういう予算は控えた。

要望 国の方向性が定まらないのは事実だが、農協や漁協など一次産業関連の団体の知恵も活かして課題として取り組んでほしい。



予算内容を徹底チェック 予算審査報告

特別・事業会計

公共下水道事業費の減額は

問 公共下水道事業で昨年、当初予算から国の都合で減額された。今年はそのようなことはないのか。
答 昨年度の倍額を予算計上した。県とのやり取りでは、現段階で内示については100%の確約はできないとのこと。できるだけ予算確保には万全を期したい。

介護予防の内容は他市町も同じか

問 介護予防一般高齢者施策事業費は法律上実施を義務付け。他町も内容的にこのくらいか。
答 内容的には同じことをやっている。最近では他の町にもあるようだが、そくさい会は、平成10年度から始めた町独自の事業である。

診療所の基金積立増額できるのか

問 診療所会計の基金積立金は新規の項目計上で千円。今後、積立金を増額できるのか。
答 22年度の決算は確定していないが、予測的には4500万円積む予定である。一般会計からの負担はできるだけ避けた

い。

ケーブルテレビ借金の返済は何年か

問 ケーブルテレビ事業の借金返済は何年間か。
答 3年据え置き12年償還で、元金が23年度から発生する。

経営的増額を目指すか方法がないが、現在、有料番組もそんなに大きな加入者の伸びがない。インターネットの加入者は増えているので、少しでも一般会計からの繰入を減らしたい。



七海浄水場

水道給水収益増の見込み 理由は

問 水道事業で給水収益をわずかだが増と見ている。人口が減少、企業活動も活発でない中で増とした理由は。
答 22年度は改定により町内の料金を統一。富来地域で年間3千万円の減収を見込んだが、今年度実績で2500万円の減に収まる見込み。

当初の計画より収益を見込めるということで計上した。

(▲減)

平成23年度		歳出分	予算額	前年度増減額	増減率	採決の状況
一般会計			122億円	▲1億8000万円	▲1.5%	全員賛成
特別会計	国民健康保険		28億4853万円	4393万円	1.6%	全員賛成
	老人保健		0	▲385万円	▲100%	全員賛成
	後期高齢者医療		3億1286万円	▲516万円	▲1.6%	全員賛成
	農業集落排水事業		3億9490万円	▲4億5629万円	▲53.6%	全員賛成
	公共下水道事業		11億4712万円	2億5024万円	27.9%	全員賛成
	地域し尿処理施設整備事業		4703万円	656万円	16.2%	全員賛成
	簡易水道事業		1782万円	11万円	0.6%	全員賛成
	介護保険		24億8000万円	4604万円	1.9%	全員賛成
	診療所事業		1億5776万円	▲5万円	▲0.0%	全員賛成
企業会計	ケーブルテレビ事業		3億3417万円	9669万円	40.7%	全員賛成
	水道事業		10億9079万円	▲1億5819万円	▲12.7%	全員賛成
	富来病院事業		14億3692万円	7737万円	5.7%	全員賛成

(金額は1万円未満切り捨て)

新副議長に

下池 外巳造

議員



3月7日、橘 照茂副議長から議長に議員の辞職願いが提出され、定例会最終日の3月15日、全会一致で辞職が許可されました。
 欠員となった副議長は、指名推選により副議長選挙が行われ、下池 外巳造議員が副議長に当選しました。

副議長の要職歴

旧町議会で広報特別委員長、原子力発電所特別副委員長、新町議会では産業建設常任委員長、教育民生常任副委員長等を歴任。通算2期。

行財政改革・補助金の見直しにあたって

特別職 給与を1年間減額 一般職

町長10%、副町長・教育長5%、職員3%（病院等の医療職を除く）

区分	1年間の影響額
町長	△134万9千円
副町長	△50万2千円
教育長	△47万8千円
職員（対象者291人）	△4241万4千円
合計	△4474万3千円

給与を減額で
町民と痛みを
共有

町では行財政改革の集中改革プランに基づき、補助金等の見直しを行いました。が、町民と痛みを共有するとして、平成23年4月から1年間、特別職、一般職の給与を減額しました。
 （全員賛成）

出産育児一時
金39万円を
恒久化

平成21年10月から23年3月までの間、出産育児一時金を、それまでの35万円から39万円に引き上げていました。今回はこの特例を恒久化するための条例改正で、引き続き39万円が支給されることとなります。
 （全員賛成）

消防団員の費用弁償の区分を細分化

消防団員が出勤したときに支給される費用弁償が、出勤理由により現在の2区分（3千円～2千円）から3区分（3千円～千円）に細分化されました。火災の予防、警戒、操法訓練大会の練習が今までの2千円から千円となりました。
 （全員賛成）

3億1902万円増額

減債基金、 特別財政基金の積み増しなど

22年度各会計別補正後の総額

一般会計	142億6,844万円	
国民健康保険	28億7,935万円	
老人保健	141万円	
後期高齢者医療	3億1,758万円	
農業集落排水	8億1,485万円	
公共下水道	7億8,553万円	
地域し尿処理	3,970万円	
介護保険	24億9,188万円	
ケーブルテレビ	2億5,729万円	
町立診療所	2億964万円	
簡易水道	1,771万円	
水道	収益的収支	6億1,749万円
	資本的収支	5億2,170万円
病院	収益的収支	11億8,433万円
	資本的収支	2億1,712万円

(金額は1万円未満切り捨て)

22年度の一般会計補正予算は、歳入では、地方揮発油譲与税や各種交付金、特別交付税などの交付決定に伴う増額や土地開発公社の解散に伴う残余財産精算金収入および土地開発基金の繰入。

歳出では、各事業の確定および精算に伴う事業費の減額や減債基金、特別財政基金などの基金積み増しによる増額で、歳入歳出それぞれ3億1902万円を増額、総額142億6844万円となりました。

一般会計主な歳入

減債基金積立金

2億8000万円

特別財政基金積立金

1億円

後期高齢者医療療養給付費負担金

2816万円

都市広域圏事務組合負担金

△1335万円

能登中核工業団地等工場誘致奨励金

1189万円

平成23年第1回臨時会

1月31日

一般会計補正予算 8072万円増額

保健福祉センターリフト付きワゴン車の購入 506万円
 学校図書館整備事業 710万円
 富来野球場スコアボード改修事業 5500万円など

平成22年度一般会計補正予算1件が提出されました。
 緊急総合経済対策による補正予算を受けて増額となった普通交付税や地域活性化交付金等の創設により、各種公共事業を追加。歳入歳出予算にそれぞれ8072万円を追加し、予算の総額を139億4942万円とするものです。(全員賛成)

永年在職議員を表彰



写真左から松浦議員、戸坂議員、小田議員

第1回定例会の初日に、議員表彰条例に基づき、議場において、永年在職議員の表彰式を行いました。
 表彰されたのは左記の3名です。

■表彰受賞者

◇15年表彰

小田 芳治 議員
 戸坂 忠寸 議員
 松浦 恒義 議員

総務常任委員会

委員長	富澤 軒康
副委員長	林 一夫
委員	戸坂忠寸計
〃	小田 芳治
〃	久木 拓栄

西山台の土地購入の違約金 再度購入の場合は



新築住宅が並ぶ西山台ニュータウン。17件のキャンセルがありました
が、再分譲により未分譲地は残り7区画となりました。(4月12日現在)

質疑 西山台の土地購入キャンセルによる違約金。同じ人が再度、購入したいとなった場合、どのように対応するのか。志賀町に住みたいという意思を最大限尊重して返還し
てあげるべきだ。

答弁 キャンセルの理由は、経済的、転勤、病気等と聞いている。

再度、購入したいとなった場合の違約金の返還は法律的にどうなのか勉強させてもらいたい。

質疑 志賀振興サービスの役員報酬分の返却は、常務が見当たらなかったとのこと。来年度はどのように考えているのか。

答弁 振興サービスには指定管理料を払っているが、常務の役員報酬が含まれていたの返してもらった。

今後、振興サービスは民間へという思いがあり、しっかりとした人を探している。候補者は何人かいるが、お願いしている段階であり、誰かを配置したい。

教育民生常任委員会

委員長	南 政夫
副委員長	寺岡真貴子
委員	越後 敏明
〃	田中 正文
〃	櫻井 俊一
〃	木村 正男

地域交流センター2階の空きスペースは



昨年の原子力防災訓練で使用された地域交流センターの2階スペース

質疑 地域交流センターの2階の空いているスペースを今後どうしていくのか。

答弁 県には現在のオフサイトセンターが狭いので、利用してもらえないかという話を投げかけた。現在のオフサイトセンターは、国の予算で整備しているので利用することはできないとの返事。

次に、広域消防の事務所として考えてもらえないかと消防署長に話をしたが、今のところ難しいという話である。

今後、広域圏の見直しで、七尾、中能登が一つになるという案も出ている。

そのときには、西山台だと都合がいいので検討してもらえるのではと思っています。

質疑 出産祝金は、事業の確定により420万円の減額。22年度にどれだけ生まれたのか。

答弁 出産祝金は第3子以降について支払う補助事業。21年度は、3子以降が35人いた。当初予算は前年度実績で計上したが、22年度は21人の申請にとどまった。

※ 今まで第3子以降に30万円を交付していた出産祝金は見直しによって、23年度から第1子5万円、第2子10万円、第3子以降15万円に変更になります。

委員長	下池外巳造
副委員長	須磨 隆正
委員	松浦 恒義
〃	山本 辰榮
〃	稲村 幸雄

ドラマ撮影誘致に係る負担金
项目的に補助金でないのか

質疑 観光一般経費でドラマの撮影誘致の負担金とある。負担金と補助金では意味合いが違ふと思ふが、こういうやり方なのか。

ケ支援委員会という受け皿を設けて、そこがドラマを作る主体に対して負担をする。構成員が集まって委員会を作り、それに対して町が負担するという考えである。

町が直接、テレビドラマを作る主体に対して出すものであれば補助金が適当かと思ふが、口



写真：フォーティックデザイン提供

当町でも撮影を予定
交流人口の拡大と
経済効果に期待

日韓中合作の連続ドラマシリーズ
「Strangers 6」(ストレンジャーズ6)

韓国、中国、そして日本では志賀町などで撮影を行うドラマ『ストレンジャーズ6』は、日本ではこの秋にWOWOWで1時間ドラマ22話を放送。その後、フジテレビでも放送されます。日本からは大河ドラマ「利家とまつ」の前田利家役で出演していた唐沢寿明さんと細川忠興役の黄川田将也さんが参加。

町では放映後の観光客の誘致やロケ地関連商品の活用など、交流人口の拡大とともに、経済効果も期待しています。

■ドラマのあらすじ

『ストレンジャーズ6』は事件発生後、日韓中の3国の特殊要員6人が招集されるところから物語が始まる。招集されたメンバーは中国公安局、韓国国家情報院、日本公安警察所属。全く融合できそうもないメンバーらは、共通のミッションを遂行するために共に動くことになる。



報道機関に公開のもと開催された議会全員協議会

動議の可決を受け
町長が成績証明書を提示

2月21日、昨年12月定例会本会議で、小泉町長の最終学歴に係る報道についての一般質問をした越後敏明議員から、米国ウツドジュニアカレッジの成績証明書の提出を求める動議が出され、賛成多数で可決された件で、議会全員協議会を開催し、町長から証明書の提示を求めました。

小泉町長は、代理人の國田弁護士とともに出席し、國田弁護士は、米国の弁護士による調査結果を報告し、成績証明書を提出しました。

議員からは、「成績証明書を開封しないという約束が守られていない」「これ以上議会が立ち入るべきでない」との意見が出され、議長が「今後は司法の場に判断を委ねたい」として全員協議会を閉じました。

志賀原子力発電所は 更なる安全強化策を

議会全員
協議会

3月28日

福島第一原子力発電所の事故を受け 志賀原子力発電所の対応は



福島第一原発の事故を受け北陸電力に津波対策の説明を受ける町議会。今後、福島事故の原因解明に伴い新たな対策を検討するように求めました。

町に対して「他の原子力立地地域と連携して国に強く改善を申し入れるべきだ」との要望も

3月28日、議会全員協議会を開催し、北陸電力に対し、福島第一原発の事故を受けた津波対策などの説明を求めました。

北陸電力からは津波に対する安全性や信頼性向上対策の取り組みについて説明がありました。

信頼性向上対策として、

- ① 非常用電源車5台を配備
- ② 原子炉補機冷却海水ポンプ用の予備電動機の確保
- ③ 海水熱交換器建屋の浸水対策
- ④ 電源喪失を想定した過酷事故対応訓練の強化などの説明がありました。

その他、福島第一原発の事故の情報収集に努めて更なる対策の検討を進め、事故の原因を踏まえた対策に

についても適切に対応するつもりです。

議員からは、「津波で現状の設備が駄目になった場合を想定して、電源を確保するための新たな設備が必要」「過去の津波の高さの資料はまったく無意味」「どうして社長が顔をださない。こういう体質が不信の要因」と厳しい意見が出されました。

町に対しても「他の原子力立地地域と連携して国に強く改善を申し入れるべきだ」との声もあり、「一番理解できるのはどういう方策かしっかりと考えてほしい」と更なる安全性の強化を求めました。



寺岡 真貴子 議員



志賀町の将来を担う子供たち

国勢調査結果から見る

人口減少 町長の所感は

若者の定住化対策を進める 町長

寺岡 国勢調査の結果から見る人口減少と国土審議会発表の国土の長期展望について、町長の所感

町長 過去5年で年間300人余の人口減少、過疎地域は2050年に人口が現在の約4割になると予測されている。

地域活力を維持するためには若者や女性、高齢者等が多様に活躍できる社会の構築が鍵であるし

若者の定住化対策を強力に進めるべきだと考えている。

国土の保全については国を挙げての取り組みが必要だ。

寺岡 今後も行政改革を進めていかなければならないが、より可視化、透明化すべきだ。事業仕分けにならない、公開の場

客観的な視点を取り入れてはどうか。

町長 事業仕分けには課題が多いと認識。

今後も持続可能な健全財政の確立が重要であり、タウンミーティングやアンケート調査等で行革に対する意見を聞きつつ、進捗状況について広報やホームページ等で周知を図る。

危険老朽空き家 先進事例にならって対策を

当町に合った対策を検討 町長



危険老朽家屋の背景には人口が減り空き家が増える事情がある。全国的には珍しいが解体処分費用の補助を始めた自治体もある。

ある状態の家屋が無いとは言えない。先進事例を参考にし、当町に合った対策を検討したい。

寺岡 定期借家契約制度や移住・住み替え支援機構のマイホーム借上げ制度、当町独自の定住促進

住まいづくり奨励金、耐震住宅リフォーム支援事業補助金、住宅耐震改修に伴う固定資産税の減額措置制度等、空き家活用につながるような制度があることをよりPRすべきだ。

町長 固定資産税納税通知書に制度紹介のパンフレット

トを同封してはどうか。

町長 各種制度紹介は、空き家対策の一つとして良い方法だ。納税通知書への同封、広報掲載、個別のパンフレット送付等から、最善の方法を考えたい。

寺岡 空き家対策は、担当課が判然としない。相談窓口も含め、一貫して総合的な対策を講じられる体制を整備すべきだ。

町長 ワンストップ窓口の必要性は認識している。今後、窓口となる部署やどのような体制が望ましいのか検討する。

町長 各区長を通じての実態把握や指導・助言もある程度可能。倒壊や、火災・犯罪誘発の恐れ

急激な予算の減額は住民生活や産業界に与える影響が大きい



林 一夫 議員

無駄を省き必要な施策に予算措置 町長

林 23年度の予算案は、全12会計合計で、21年度と比較して30億円の大幅な減額となっている。

急激な減額は、住民生活や産業界に与える影響が大きい。地域の活力や魅力低下にも繋がり、逆に将来の財政悪化にも繋がる。

町長 極力無駄を省きながら、必要な施策には予算措置する方針で予算を調製。町の借金は、21年度末に比べて23年度末では、約34億4千万円減少する見込みである。

林 若者の定住化を求め、若者の子育て支援策や既存企業の支援策を含めた将来ビジョンと対応姿勢を問う。

町長 若者の定住化に対する助成事業やワクチン接種費用の全額助成、放課後児童クラブの充実など子育て支援策にも取り組んでいる。

町では商工会や県の関係機関と連携し、各種の補助及び融資制度等を通

して、既存企業のサポート体制を積極的に展開している。

町民の生の声を聞きながら、町民が幸せを実感できるまちづくりを目指すことにより、総合計画で定める「夢・未来の創造 笑顔あふれる能登ふれあいの郷」の町の将来像が実現できると考えている。

林 現段階で当初予算の見直しは無理としても、補正予算で積極性ある対応を求める。

町長 現段階で補正予算は考えていない。



日本を代表するペアリングメーカーNTNの能登中核工業団地への進出表明記者会見。(左から谷本県知事、鈴木NTN社長、小泉町長)

志賀町長の退職金は県内でも上位 どのような評価か

組合条例により算出で妥当 町長

林 志賀町長の退職金は県内でも上位の額。どのように評価しているか。

町長 本町を含めた県内全9町、12の一部事務組合で構成する石川県市町村職員退職手当組合に加入。組合条例に基づき算出される額であり、妥当なものと考えている。

林 マニフェストに掲げた5つの拓く「①健全財政、②若者雇用、③職場産業の元気、④暮らしの安心、⑤教育」の今日までの具体的な取り組み、進捗状況は。

町長 ①職員数の削減、新しい指針に基づく補助金交付、事務事業評価による事業内容の見直し。

②NTNの進出が決定。24年には90名程度の従業員で操業。

③今後も企業誘致に向けたトップセールスに努める。既存企業へのフォローアップも行う。

④地域間で相違のあった水道料金や外灯の電気料などは、統一年度を前倒して実施。タウンミー

ティング、町長談話室など、町民の声を聞き、安心して暮らせる町を目指

した施策を展開。⑤平成22年度から学校図書館司書を設置。

林 今後の課題は、健全財政の確立には、地方債の発行を抑制、事業の見直しにより無駄を省き、新たな行政課題に備えたい。

地域経済の活性化は、企業誘致や若者定住施策のほか、志賀町が持つ地域資源を活かした観光振興を図りたい。

林 毎週、町長談話室を継続して開催しているが、他に優先すべき公務や取り組むべき課題に時間を充てるべきだ。

町長 住民が真に必要と考える施策を気軽に意見交換できる貴重な時間であり、今後も継続したい。



久木 拓栄議員

人口減少、高齢化の進行、財政面でも歳入が年々減少する状況を認識した上で、今後の町政の舵取りをしなければならぬ。



昨年は地域や各界各層の意見を聴くとして各種団体を対象に開催されたタウンミーティング。志賀・富来各地域で計8回開催された。(写真は富来活性化センター)

今日まで町政に携わって どのような感想を持っているか 今後もしも町政の舵取りを 町長

久木 町長は今日まで約1年6カ月の間、町政に携わってきたが、今振り返ってどのような感想を持っているか。

町長 がむしろに突き進んできた。真つ先に取り組んだのが職員の話。対応の改善。町民から直接、意見を聞く場も設け、町政に反映させるための努力もしてきた。

久木 本年は2年目の折り返しの年でもある。どのような意気込みで町政に取り組むのか。

町長 今後は、企業誘致や観光振興などを更に積極的に進め、町の活力を高めていきたい。

同時に無駄を省き、必要なものには積極的に投資するという姿勢で、行政改革を推進し、健全財政を維持することによって、将来に負担をかけるない財政運営に取り組む。

志賀原発のトラブル 今までの説明を どのように理解しているのか

私なりに理解していたが 度重なるトラブルに大変がっかり 町長

久木 度重なるヒューマンエラーなどの連続で、発電停止等のトラブルが発生している。町長は北陸電力の今までの説明や弁明に対してどのような理解しているのか。

町長 これまでの北陸電力の説明には、私なりに理解はしていたが、今回のように度重なるトラブルによる原子炉の手動停止には大変がっかりしている。

北陸電力には、徹底した原因究明とあらゆる再発防止策の実施を強く求めている。

久木 北陸電力からブルサマーの申し入れがあったが、現時点で、どのような考えか。

町長 原子力発電所が安全で安定した運転ができるよう全力を傾注するとともに、これまで以上に、町民に分かりやすく丁寧な説明をし、理解を得るための努力をするよう求めている。

久木 高浜町内の悪臭公害対策について、早急に行政と議会が一体となって、公害の無い町づくりに取り組むべきだ。

町長 公害のない安全・安心の町づくりは、私の理念の一つ。積極的に取り組む。

久木 昨年、県の調査で悪臭汚染度が高いとの測定結果の後、しばらくは改善されたが、すぐに元の臭いに戻ったと聞く。

町長 毎月2回の立入調査で指導書の内容の履行を検証。強い臭気を認知した場合、臨時に立入調査を実施している。

現段階では、概ね履行されていると確認している。必要に応じて新たな指導も行っている。

久木 この問題は一昨年の選挙公約で町長の重要な責務である。

町長 今後も県と連携し、事業者とも話し合いながら、問題の解決に向けて全力で取り組む。

その他の質問

あの質問のゆくえ

今回、「あの質問のゆくえ」として、一般質問の提言などが町政にどのように反映されているのかお知らせします。

質問

地区自治振興基金の規定 変更を検討すべきだ

平成22年9月定例会

各種基金の有効活用や、地区自治振興基金の運用規定の変更も検討すべきではないか。

町長答弁

旅行に使用は疑問 要綱の見直しを行いたい

地区自治振興基金については、21年度から補助金交付要綱を改正し、食費や旅行等の用途制限を規定した。旅行に使用することには疑問を持っているので、今後もさらに要綱の見直しを行いたい。

どうなった

全ての補助金は厳格に運用する ために要綱を改正しました

町の行財政改革に伴う補助金の見直しにより、23年度から全ての町補助金交付要綱を改正しました。

地区自治振興事業補助金では、旅行に使用することは禁止にはなりませんでした。補助金を厳格に運用するために、申請様式の変更、通帳・請求内訳書、旅行の集合写真の添付、また、施設整備、備品購入の際の標識の貼付の義務付けなどの要綱の改正を行いました。

質問

子宮頸がん、乳幼児の任意ワクチン接種に助成を

平成22年6月定例会

唯一予防できるガンである子宮頸ガンのワクチンに助成すべきだ。ヒブワクチン、肺炎球菌やおたふく、水痘等の任意ワクチンも、乳幼児のいる世帯で、ワクチンへの理解を深め、保護者の負担軽減するために助成すべきだ。

町長答弁

制度導入に向け検討したい

これらワクチンは重大な疾患を予防する上で非常に効果が高いものと認識している。一部補助について、財政負担の効果を見極めながら、制度の導入に向け検討したい。

どうなった

全額公費負担で実施します

子宮頸がん予防ワクチンは、町内の小学6年生から中学3年生の接種希望者に対し、昨年9月から全額公費で集団接種を実施しました。23年度からは小学6年生を対象に個別接種で実施する予定です。



小児肺炎球菌ワクチンとヒブワクチンは、23年度から接種を希望する乳幼児に対し、全額公費負担で実施します。

東北地方太平洋沖地震で 被災されました全ての皆様に 心からお見舞い申し上げます

議員一同で
義援金50万円

3月11日に発生した地震は建造物の倒壊・地すべり、液化化現象などの直接的な被害のほか、津波、火災、そして、福島第一原発の事故に伴う放射性物質漏れや大規模停電など、東北地方を中心に甚大な被害をもたらしました。

本町は、平成19年に発生した能登半島地震の際に、全国の大変多くの方から救援物資や義援金をいただいています。
また、福島県大熊町や宮城県南三陸町など、本



大熊町で研修する本町議員。大熊町は働く場があり低負担の住みよい町だった。

議会の視察研修でお世話いただいた町や原発立地地域に大変甚大な被害が出ています。

議員一同で協議し、被災地の方々への支援として義援金50万円を送ることを決めました。

選挙カー使用
現職は自粛の
申し合わせ

また、被災地に配慮して、4月24日に予定されている町議会議員選挙では、現職の立候補予定者は選挙カー使用の自粛を申し合わせました。



南三陸町では廃校舎利用の取組みを視察させていただいた。

第25回町村議会広報全国コンクール 3年連続の受賞

議会広報特別委員会

議会だよりしか

優良賞

昨年4月末発行の「議会だよりしか」19号が、第25回町村議会広報全国コンクールで優良賞をいただきました。

この号が現広報委員としての最後の発行となり、次号からは新広報委員での発行となります。町民の皆様には、引き続き「議会だよりしか」を、ご一読くださいますようお願いいたします。



富来を訪れる人に楽しんで欲しい



会長 本多 達郎さん
(赤崎)

シリーズ グループ紹介②

富来観光ガイドの会

また じ 又次



又次の会員の皆さん。富来活性化センターで行われた会議におじゃましましたが、会員の方からは「町はもっと観光に力をいれてほしい」と要望をいただきました。

◆このグループはいつ発足しましたか。きっかけは。

◇新しい志賀町ができる前の平成16年に発足しました。

「志賀町になると富来が忘れられる。富来には風光明媚な海岸線、白砂青松の綺麗な海岸線、昔からの古く素晴らしい文化や

文化財があり、源平の伝説、新しい観光施設など人々に誇ってよい財産を私たちが案内して、皆さんに知ってもらいたい」ということで仲間が集まりました。

◆グループ名の由来は。

◇今から350年ほど前に千浦に実在したという

ダラなのかハバシイのかトンマなのかトンチがあるのか分からないが、憎めない男の名前の「又次」としました。

又次は船乗りをしていました。又次の言動が面白いので全国の船乗りの間で「千浦の又次、能登の又次の話」として語り継がれていたそうです。それで、私達も平成の又次になって、町のことを宣伝しようと思いました。

「またじ」の「ま」は町を学ぶの「ま」です。

「た」は楽しむ、楽しませるの「た」です。

「じ」は実行しよう、実践しようの「じ」です。私達には、町のいろいろなことを学び、知り、それを知ってもらおう、自分たちが楽しんで、訪れる人にも楽しんでもらいたいという願いがあります。

ガイド中には、又次の面白い話なども交えて案内しています。

観光客に、リピーターとして何度も来てもらえることがうれしく、その



ガイドの会で勉強会もしています

意味でも「又次」は「また次もよろしく」なので面白くて良いニックネームだと自負しています。

◆会員にはどのような方がいらっしゃいますか。

◇会員は子供の頃から地元で育った人ばかりです。まだまだ勉強中ですが、会社社長、お寺の住職、学校や保育所の元先生、元郵便局員、主婦などバラエティに富んでいますので、それぞれお客様によつての専門的な説明ができると思います。

◆最後に課題などありましたら。

◇町の合併後、「志賀町観光ガイドの会」にして町全体を案内してはどう

か」との声もありますが、広くて知らないところがたくさんあり、勉強不足で手が回りません。だから今も、「富来観光ガイド」を名乗っています。志賀地域の意欲のある方にお願ひしたいのです。会員も募集しているの



ヤセの断崖でガイドをする本田さん

議会広報特別委員会

発行責任者	田中 正文
議長	越後 敏明
委員長	富澤 軒康
副委員長	下池外 巳造
委員	櫻井 俊一
	戸坂忠寸計

議会だより

しか

3月定例会

No.23

平成23年4月27日

発行 / 志賀町議会 編集 / 議会広報特別委員会
〒925-0198 石川町羽野郡志賀町末吉15番地1
TEL (0767) 32-1111 FAX (0767) 32-3933